



21世紀の暮らし方研究所
ロゴマーク

これからの阿武町を導く旗のように
まちの気配を遠くに伝える波のように
笑い声を届ける音のように

21世紀の暮らし方研究所は育まれます。



3,500人の小さなまちの暮らしの実験室

この冊子を 手にとってくださった みなさんへ

住み続けたいまちって、どんなまちだろう？

帰りたい、移り住みたくなるまちって、どんなまちだろう？

山口県の日本海側に位置する人口約3,500人の小さなまちで、
わたしたちはそんな疑問に向き合いながら、一步を踏み出しました。

この冊子は、2015年にまとめられた阿武町版総合戦略の中から、
町民である20～30代の若者がこれからのまちに必要であると考えた
8つのプロジェクトを紹介したものです。

ぜひ、それぞれの視点で読んでください。

そして、次の30年を一緒に築いていきましょう。



10代のみなさんへ

将来もこのまちに住むことが、あなたの人生にとって1つの選択肢となるように、
ワクワクするような種をまちに蒔いていきます。10代のみなさんとも取り組んでいきたいことが、
この冊子に込められています。一緒に楽しいまちにいきましょう。

20～30代のみなさんへ

このまちの次の30年をつくるのは、わたしたちです。
このまちを舞台に、思いきり人生の主演を演じませんか。
ともに語り、楽しみ、小さな成功体験を積み重ねながら、わたしたちが望む
未来を実現していきましょう。

ミドル・シニア世代のみなさんへ

みなさんから引き継ぎたいことが、このまちにはたくさんあります。
大切に使い込まれたすまい、季節の恵みを暮らしに届ける仕事の数々…
みなさんの暮らしの技術に敬意と関心を持っている若者が増えています。
次の世代にこのまちの何を残し、託したいかを語り合い、バトンをつないでいただきたいと思います。

阿武町から離れても、ふるさとを想っているみなさんへ

阿武町に移り住みたいと考えているみなさんへ

地方の良さを生かし、新しい感覚でまちづくりを行うことが、いま、わたしたちに求められています。
そのためには、みなさんの力が必要です。
みなさんにとって、帰りたい、住みたいまちにすることは、わたしたちの願いでもあります。
離れていてもできることがあるはず。ともに取り組んでいきましょう。

《阿武町版総合戦略とは》

人口減少社会を生き抜く上で、「都市から地方の流れ」をつくり
地方の特徴を生かしながら、持続的な社会をつくっていくための計画です。

阿武町のいま



阿武町のこれから

「選ばれるまち」をつくる

このまちを気に入っているから。このまちで家族と暮らしたいから。仕事場があるから。いつかは出たいと思っているけれど、いまはここにいる。理由…特に意識したことないなあ。なんて人もいるかも知れません。どんな理由であれ、その想いをそっと受け入れ、応えてくれるまちに、わたしたちは魅力を覚えます。住み続けたい、移り住みたい、そう思うようになります。

では、この小さなまちを人生の舞台として「選ばれるまち」にするためには？
わたしたちは、ここから始めます。

「ラボと呼んでください」

暮らしの実験室「21世紀の暮らし方研究所」が誕生します。

フィールドはまち全体。研究員はまちの一人ひとり。そして阿武町の力になりたいと集まった人たち。全国どこにでもない不思議な研究室がまちの中に誕生します。ラボは、

- 自分たちのまちのことを自分たちで調べて、いまこのまちに必要なことに取り組むことができる場所。
- この小さなまちの暮らしの魅力や意義を探求し、全国に向けて発信する場所。
- 立ち寄れば、まちの「いま」がわかり、「これから」を語り合える場所。
- 「阿武町暮らしのプロ」であるまちの人たちが、知識や技術を持ち寄り、誇りを持ってまちの未来を培う場所。

そんな「暮らしの実験室」であるラボでの活動のテーマは《すまい・しごと・ひと》。その内容をご紹介します。

“すまいラボ”とは



すまいラボでは、まちに古く残された家(空き家)に関するプロジェクトを進めます。
多様なすまい方ができるまちには、多様なライフスタイルを送る人が集まります。
大切にされてきた家を放置することなく未来に継いでいきたい。
家を手直ししながら自分に合った暮らしを送りたい。
地域とのつながりを大切にしてくれる人に移り住んでもらいたい。
不動産のないまちだからこそできる、家と人・地域との関係の育み方があります。



- * 空き家所有者の負担軽減
- * 空き家バンク登録者数の増加
- * 空き家の賃借・売買の円滑化
- * 放置空き家の減少による防災・防犯機能の向上
- * 単身者のすまいの選択肢の増加
- * Uターン希望者に対する帰郷の動機づけと実現
- * 移住希望者のスムーズな移住の実現
- * 転入が少なかった地域への移住者の増加
- * 家族世帯の町内住み替えニーズへの対応の促進

01 すまいの将来について話し合うきっかけをつくる 空き家ノートプロジェクト

日常生活の中で、すまいの将来について家族で改めて話し合うきっかけはなかなか作りにくいものです。家族が遠く離れて住んでいるとなおのこと。いつか必要になる話し合いを先延ばしにしてきたことで、いざという時に困ってしまった、という話をよく聞きます。

そんな「いざ」を「いま」から話し合うために、なにが必要なのだろう？わたしたちが考えたのは「ノート」です。大切にされてきた家の記録や記憶を残せるもの。すまいに関する助成制度が一つにまとめられているもの。そばに置いておくことができ、すぐに取り出せる存在。その「ノート」をきっかけに、すまいにとっても、家族にとっても、地域にとっても最適な選択をこのまちに増やしていきます。



Project Partners

- * すまいの継ぎ方・手放し方に
関心のある町民
- * 外部協力者(製品デザイン分野)
- * 阿武町役場(空き家バンク担当)
ほか

02 ご近所さんだからこそできる空き家の管理がある 空き家管理プロジェクト

風が通っている空き家からは、「うちにいらっしやい」という地域の声を感じとることができます。ご近所の方が空き家のお世話をし、借りたいと訪れた人にその特徴や地域の魅力を話す。これは、従来の空き家管理サービスでは手が行き届かない、地域の人だからこそできる空き家の管理方法です。

ご近所の方が目を配ってくれることは、遠く離れて住む空き家の所有者にも安心感を与えることができます。空き家を放置するのではなく、新たな人を呼び込む「バトン」として地域の未来につなぐ。月に数時間の積み重ねが、まちの新陳代謝を促します。



Project Partners

- * 地域コミュニティ
- * 外部協力者(コミュニティビジネス分野)
- * 阿武町役場(空き家バンク担当)
ほか

03 すまいの記憶を届けるウェブサイト 思い出不動産プロジェクト

すまいを選ぶとき、わたしたちは間取りや譲り受けるための価格を事前に知ることができます。ただ、それだけですまいの魅力や価値を伝えきれているのでしょうか？

わたしたちのまちには、大切にされてきた空き家があります。そしてそこには1軒1軒異なるストーリーがあります。その思い出や家主の想いも合わせて情報を届けたい。それに共感してくれた人は、きっと家を大切に住み継いでくれる。そう考えて、すまいの記憶を届けるウェブサイトを運営します。家を譲りたい人の気持ちを町民目線で紹介する記事は、不動産サイトの役割を越え、まちの記憶帖にもなることが期待されます。



Project Partners

- * 空き家や情報発信に関心のある町民
- * 外部協力者(ウェブデザイン、情報発信分野)
- * 阿武町役場(空き家バンク担当)
ほか

“しごとラボ”とは



しごとラボでは、このまちならではの働き方を探求し、提供するためのプロジェクトを進めます。

「働く」の語源は、傍(ハタ)を楽(ラク)にすること。

働くことを通じて、自ら楽しみながら地域や周囲の役に立ちたいと考える人が増えています。

このまちには、わたしたちの暮らしを支える仕事がたくさんあります。

ライフステージに応じて柔軟に働ける仕組みをつくることで、若い世代から年配の方まで、

まちなかで活躍するシーンを増やしていきます。



- * 法人や個人ごとに行っている求人作業の負担軽減
- * 短期労働・転職希望者への選択肢の提供
- * 試住・試業の間口が広がることによる移住希望者の増加
- * 従来のあるまちにはない、新たな働き方や起業をする町民の増加
- * 第一次産業従事者の増加・世代交代の促進
- * 地域で働くことを選択する若者世代の増加
- * 移住直後からのスムーズな阿武町生活のスタート
- * 異業種・異年齢交流による刺激の創出
- * 移住者・就職希望者・町民等、多様な交流の促進

01 暮らしの窓口をつくりたい 阿武の玄関づくりプロジェクト

このまちに移住したい、ふるさとに帰りたいと希望する人が増えてきました。その時に「はじめまして」「ただいま」と訪ねることができて、「おかえり」「ようこそ」と迎え入れることができる、「まちの玄関」のような場所をつくりたい。

そこでは、しごととすまいの情報をまとめて手に入れることができたり、暮らしのお世話役や町役場の職員の方々と相談ができたり、地域の人との会話を楽しむことができます。

移住や帰郷希望者のみならず、高校を卒業した若者や、町内での住み替えや転職を考える人たちにも役に立つこの場所で、理想のはたらき方・すまい方の実現をお手伝いします。



Project Partners

- * 定住アドバイザー
- * 移住経験者
- * 阿武町役場(空き家バンク担当)ほか

02 まちを支える仕事を支えよう！ 1/4works プロジェクト

基幹産業が第一次産業であるこのまちには、季節や収穫量に応じた期間限定の仕事が多く存在します。親戚や知人・友人の力を借りながらなんとか乗り切ってきたこれらの仕事も、お手伝いをしていた人たちが高齢化してきたことで、人集めがとても大変なのだそう。第一次産業だけではありません。まちの中を見渡せば、誰かの存在を必要としている、まちになくはならない仕事がたくさんあることに気が付きます。

一方で、はたらき方の価値観は多様化してきています。1つの仕事に就くのではなく、複数の仕事の組み合わせで生計を立てる「複業」や、農ある暮らしを実現するための「半農半X」、子育てや起業・移住の準備期間だからこそ「小さく・短く働く」ことを希望する声も増えているのです。若い人のみならず、シニアの方々にとっても、外出する楽しみや地域に

貢献できる場所があることは、生涯にわたって誇りを持って暮らせることにも繋がります。そう、いま必要なのは、これらのニーズに柔軟に答えていくための仕組みづくりです。

わたしたちは、「まちを支える仕事を支える」という、少し変わったハローワークのような機能づくりに挑戦します。まずは暮らしに密着している第一次産業から。季節ごと、つまり1/4年ごとに発生する仕事を「1/4works」と呼び、まちの中の人を求め声と仕事を求める声を集め、結び付けていきます。

問題が複雑な時ほど、大切になるのは間口を広く柔らかく取り組んでいく姿勢。1/4worksが、まちを支える仕事に触れ、感謝し、問題意識を共有できる機会として根付いていくことを目指します。



Project Partners

- * 生産組合・法人・部会・農林漁業従事者・企業
- * 外部協力者(就労支援分野)
- * 阿武町役場(経済課)ほか

“ひとラボ”とは



ひとラボでは、町民とまちとの接点を増やし、愛着と誇りを育むプロジェクトを進めます。
いまは人生90年の時代。ゆるやかで多様なつながりこそが、
いつまでも精神的な喜びに満ちた生活を送るための秘訣です。
訪ねたくなる場所や会いたくなる仲間をまちなかに増やしていくことで、
まちから巣立つ多くの若者がまた帰ってきたくなる、
全国から訪ねてみたくなるまちを築きます。



- * 拠点を活用し活動する町民の増加
- * イベントなどの町民主催の活動の増加
- * ワークショップやものづくりの機会の増加
- * ふるさとグッズの販売促進
- * 将来はふるさとで働きたいと考える高校生の増加
- * 町内外の多世代交流の促進
- * 移住者と町民の交流の拡大
- * 都市部との交流人口の拡大
- * 伝統文化・食文化の伝承

01 高校生とまちとの接点をつくろう アブクロー ABuQuRo プロジェクト

このまちでは、中学生の約8割が町外の高校へ進学します。反対に町外から通学し、3年間の時間をこのまちで過ごす高校生もいます。進学・就職を考える大切な時期に、このまちの大人たちの働く姿と想いに触れてもらう。楽しみながら阿武町を体感できるプロジェクトを始めます。

ABuQuRoとは、阿武の素材で作られた袋(バッグ)のこと。米袋や漁網など、農業・漁業のまちらしい素材を集め、デザイナーと一緒にオリジナルバッグを完成させます。その過程で、協力してくれる大人たちに共通する「地方で働く」という生き方に触れてもらうことで、ここに住みたい、いつか帰ってきたいと思ってもらえるふるさとづくりを進めます。



- Project Partners
- * 高校・保護者
 - * 外部協力者(クリエイター)
 - * 教育委員会
- ほか

02 まちにないものは、みんなで作る！ ツクロー TsuQuRo プロジェクト

「つくろう！」を合言葉に、空間づくりのプロである専門家と、地域のプロであるまちの人と一緒に汗をかき学び合いながら、空き家や空き施設をまちの交流拠点に変えていくプロジェクトです。

居心地のいい空間には、多様な交流と創造的な活動が生まれます。年齢や職業を越えたつながりは、新たな刺激とまちへの愛着に、「ないならば、つくろう！」という考え方は、あらゆる場面で発揮されるまちの原動力につながります。

最低限必要な道具をシェアする仕組みや、改修やDIY(おうちいじり)を仕事や得意とする町民の方のサポートをいただける仕組みをつくることで、誰もが気軽に参加できる場づくりを目指します。



- Project Partners
- * DIYに関心のある町民
 - * 町内・外部協力者(建築・DIY・施工分野)
 - * 阿武町役場
- ほか

03 家事がつなぐ都市と地方の新たな親子関係 阿武町式花嫁・花婿修行プロジェクト

都市部で働く若者世代を中心に、花嫁・花婿修行のニーズが高まっています。それは、親元を離れて忙しく働く中で、家事を通じて暮らしを見つめ直したいという気持ちの表れです。町内に家族・親族がいない移住者からも、このまちの食文化に触れたいという声があがっています。

ならば私の出番！と、食材の鮮度を見分け、美味しく調理する方法を教えることができる「暮らしのプロ」がまちにはたくさんいます。料理だけでなく、空き家を使った本格掃除体験、クリーニング屋さんが教える目から鱗の洗濯術…このまちに眠る暮らしの技術が、このまちと全国との新しい親子関係=縁をつないでいきます。



- Project Partners
- * 町内の農家・漁師・食生活改善推進員・生活改善実行グループ
 - * グリーンツーリズム関係者
 - * 外部協力者(ツアーコーディネート分野)
 - * 阿武町役場
- ほか

小さなまちだからこそ、 ほしい未来を実現できる

わたしたちが大切にしたいのは、自分たちの力ですぐに始めることができる取り組みです。それは、小さな成功体験の積み重ねこそが、ほしい未来に近づく確かな方法だからです。みなさんはなにから始めますか？

知識や経験を深めた若い人が、帰ってきてチャレンジしやすいまちにしていきたい！



いまいる人が幸せで楽しく暮らしていることが一番の魅力になるのだと思います！



出番を待っているシニアの方がまちにはいる。一緒に取り組んでいきましょう！



選ばれるまちになりましょう！



★ お気に入りの場所での暮らし

★ スムーズな移住生活



★ まちを支える誇り

★ 自分らしいはたらき方



★ 新たな交流

★ 創造的な活動



すまいるラボ

保健や介護の分野とも一緒に取り組めることがありそう！



しごとラボ

阿武町ならではの取り組みでほかのまちからも興味を持ってもらえそう！



ひとラボ

町民の持っている力や技、若い人の感覚を生かしていきたい！



研究員大募集!

2016年
4月
スタート

ラボ「研究員になる」と?



* 友人・知人が増えます

ラボには、町内外の様々な世代や経験を持つ人が出入りします。仕事や学校、ご近所関係とはまた違う友人・知人が見つかります。



* スキルが身に付きます

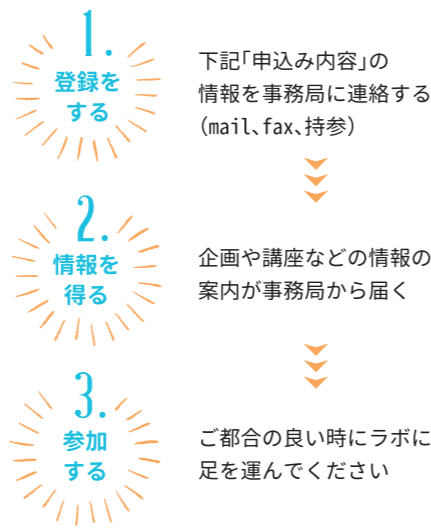
ラボでは、情報発信、写真撮影、DIY (おうちいじり) 技術などを身に付ける講座を開催します。楽しみながら生活にも役に立つこと間違いなしです。

* ほしい未来をつくることができます

阿武町をこんなまちにしたい! ラボには同じ想いを持った人が集まります。コトを起こすための環境と仲間がラボにはあります。



ラボ「研究員になる方法」



Q&A

Q 登録資格はあるの?

A ありません。どなたでも歓迎します。年齢や知識・経験も問いません。阿武町にお住まいじゃない方でもご登録いただけます。学生さんは前もって保護者の方に登録をお伝えくださいね。

Q 会費がかかるの?

A 基本的にかかりません。企画や講座の内容により、一部少額をいただく場合もあるかも知れませんが、事前にお知らせします。また、参加のご判断はご本人にお任せします。

Q 参加できない日もあるかもしれないけれど...

A 気にされないでください。不定期のご参加や情報を得たいだけという方でもご登録いただけます。阿武町のことを知り、タイミングが合えば活動してみたいという気持ちをラボでは大切にしたいと考えています。



所在地(2016年現在)
山口県阿武郡阿武町大字奈古2661-2
門名(地域における愛称)を水甚といます

お問い合わせはこちらまで
事務局(役場総務課企画広報課)
tel:08388・2・3111 fax:08388・2・2090
mail:kikaku@town.abu.lg.jp

申込み内容

名前	歳	男・女	居住地
ニックネーム	関心のあるラボ <input type="checkbox"/> すまいラボ <input type="checkbox"/> しごとラボ <input type="checkbox"/> ひとラボ		質問や意気込み
連絡先 (tel/mail)			

阿武町へのアクセス

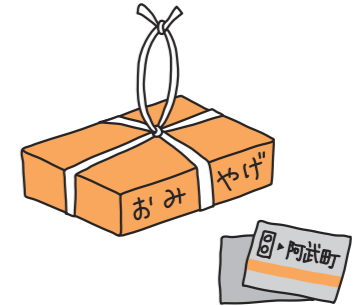


阿武町へ遊びに行きたい!

- 【車】萩市から車で20分 / 山口市から車で80分 / 島根県益田市から車で50分
- 【JR】JR山陰本線(奈古駅・木与駅・宇田郷駅)
- 【バス】防長交通(山口県内)
- 【飛行機】山口・宇部空港から車で90分 / 萩・石見空港から車で50分
- 【新幹線】新山口駅から車で80分

ふるさと 阿武町へ帰りたい!

1. 友人や家族に帰省の連絡をする
2. お土産・切符を購入する
3. ラボを訪ねて、阿武町のいまを知る
4. 阿武町で体験したこと、感じた変化を友人・家族に話す
5. 日常生活の中で時々阿武町に思いをはせる(1に戻る)



阿武町に移り住みたい!

1. ラボのウェブサイトから阿武町での暮らしのイメージを掴む
2. 役場総務課に連絡をする(08388・2・3111)
3. 阿武町に足を運び、ラボを訪ねて阿武町のいまを知る
4. 役場職員・定住アドバイザー・地域の方々に暮らしの相談をする
5. 決断をする!



《ラボについて知りたい!》

2016年中に、21世紀の暮らし方研究所のウェブサイトが開設される予定です。阿武町役場ウェブサイトよりご確認ください。

※この冊子は2015年10月末に策定された「阿武町版総合戦略」の副読本です。
※プロジェクト名は2015年10月末のもので、プロジェクトの進捗に応じて変更される場合があります。

製作/テキスト:studio-L 山崎亮・西上ありさ・村岡詩織
デザイン:株式会社 益田工房 イラスト:KUBORIm
発行/阿武町役場 2016年2月 第1版 第1刷
2016年3月 第2版 第1刷